拝啓　今年も早や９月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園には、たくさんきんもくせいの木があります。例年１０月初めに花が咲いて甘い香りを漂わせるのですが、今年は、木によっては９月中旬に花を咲かせていました。

今回は、小西芳之助先生の『コリント人への第一の手紙講解説教』からの引用の４回目ですが、今回のエンカウンターの８ページ、「天国ありと信じて歩め」という項には、次のように書かれています。

「本日の要点の第１は、霊的成長が必要であるということであります。パウロは何時までも赤子でいてはいけないと言っておりますが、私はこの赤子から成長する唯一の道は、その霊によって歩むことにあると思います。聞いているだけでは何時までも赤子です。多くの信者は、聖書の勉強をしたり、あるいは神学をやってみたり、あるいは日曜日に出席して先生の説教を聞いているだけでしょう。真理に向かって歩んでいないでしょう。私はそう思います。赤子の間は何時までも肉の考え方が支配しています。しかし、我々が永遠の生命を教えられて天国ありと信じたら、天国ありと信じて歩む、天国を目当てとして歩む。その時にわれわれに霊的な力が加わってきます。歩むことです。一歩進めば一歩だけ成人します。」

「天国ありと信じて歩む。その時にわれわれに霊的な力が加わってきます」とありますが、確かにそのように感じます。

この一月に読んだ『一日一生』等の本から、感銘を受けた言葉を紹介します。

小西芳之助先生『主の御名を呼ぶ』9 月 12 日

「再び、偉大なる人

申命記 4 章 7 節にいわく、『我々の神、主は、我々が呼び求めるときに、常に、我々に近くおられる。いずれの大いなる国民に、このように近くおる神があるであろうか』と。そして、私は言いたい。『我々の主イエス・キリストは、我々が呼び求める時、常に、我々に近くおられる。いずれの偉大なる人に、このように近くおる神があるであろうか』と。申命記のこの一節は、私がロマ書 10 章 13 節の『主の御名を呼び求める者は、すべて救われる』を信じてより、つねに、私に対しての霊感である。」

新渡戸稲造先生『一日一言』9 月 15 日

「好しと認めたものは、即座に実行に取りかかるがよし。躊躇する間に決心は薄らぐ、善事をなすに月日を選ぶ要はない。善行する日は吉日、吉日を待つ間に吉日は去りゆきて凶日のみ残るなり。」

松下幸之助先生『道を開く』「後生大事」

「仕事が成功するかしないかは第 2 のこと。要は仕事に没入することである。一心不乱になることである。そして後生大事にこの仕事に打ち込むことである。そこから、ものが生まれずして、いったい、どこから生まれよう。

おたがい、力及ばぬことを嘆くより先に、まず、後生大事に仕事に取り組んでいるかど

うかを反省したい。」

内村鑑三先生『続一日一生』9 月 7 日

「真理は聞いただけではわからない。実行（実験）してみて初めてわかる。すべての真理においてそうである。ことに信仰の真理において、そうである。『まこと』は事であって言ではない。最も確かなる真理は手をもって触れたる真理である。聞くのみにしておこなわざる者は、終生真理を解し得ずして終る。カーライルいわく、produce, produce（生産せよ、生産せよ）と。生産せずして、少なくともまじめに生産せんと努力せずして，真理はわからない。おのが弱きを標榜して実行を避くる者は真理を解し得ないまでである。読書又は聴講をもって真理把握の唯一の道となすものは、終生真理を把握し得ずして終る。」

バークレー先生『一日一章』9 月 1 日

「全てのことを自分一人でやろうとしてはならない。
私自身この欠点をもっていたことを認めなければならない。私は何時も、人に仕事をまかせるのが下手だった。が、私のお世話になっている医者が立派な人で、人に仕事をまかせることについて教えてくれたのである。

仕事をまかせないということは、自分の同僚や助手を信用しないということである。それはまた、ある人から、彼がやるべきであり彼もおそらくやりたがっている仕事を、だまして取ってしまったこにもなる。どんな仕事でもワンマンショーになってしまうと、必ず失敗するものである。賢い指導者や誠実な牧師は人に仕事を　まかせることを学ばなければならない。自分に与えられた義務は、仕事を全部自分でやることではなく、他の人たちを訓練して自分と一緒に仕事をさせることである、と知らねばならぬ。」

カウマン先生『山頂を目指して』8 月 31 日

「あなたの人生を最も強く支配しているものは、あなたの機会である。それはまた、一度逃がしたら、決して呼び戻すことのできないものである。もし、機会が私たちのかたわらを、音もたてずにすばやく通り過ぎようとするとき、それに目を留め、それを捕えようとするならば、私達は、明確なビジョンを持たなければならない。機会は、あたかも日が過ぎるように、完全に消滅してしまう。」

8 月 28 日（土)、南原研究会の研究発表会で、私は、「南原繁とヒルティ―」という題で報告をしました。南原先生が言うように、ヒルティの本（『幸福論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』、『眠られぬ夜のために）Ⅰ，Ⅱ』）は、むしろ老年の人たちに向いている本のように思います。

9 月 23 日（木)、本誌読者の佐藤昭夫さんと島田公博さんと 3 人で、夜叉神峠ハイキングに行きました。一日中快晴に恵まれ、素晴らしい眺めを満喫してきました。

新型コロナの感染者数が、急にダウンしました。しかし、マスク、手洗い、うがいなどはこれまで同様注意され実行されて、お体には十分ご注意下さるようお祈り申し上げます。

9 月 24 日　　山口周三

エンカウンターの読者各位